



# 佐賀県の取り組み状況

平成28年12月22日

J☆SCRUM 第3回会議

## 取組状況 前回会議（H28.3.25）以降～

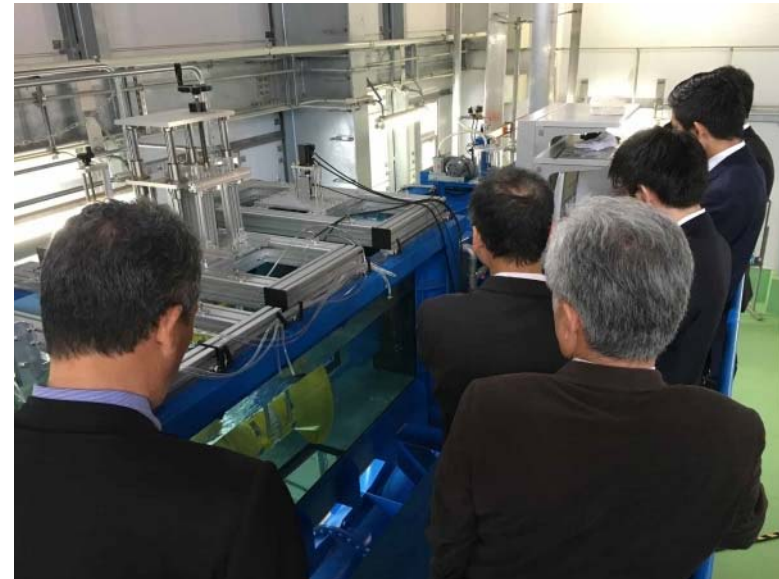


H28.3	J☆SCRUM 第2回会議
H28.5	国への政策提案 「実証フィールドのインフラ整備」「一般海域利用の法整備」
H28.6～7	第11回 再生可能エネルギー世界展示会 出展（パシフィコ横浜）
H28.8	九州地域戦略会議「再生可能エネルギー産業化推進委員会」 平成28年度 第1回 海洋エネルギー産業化実務者会議
	UMIENEデータ整備（海底地形調査等）開始
H28.9	佐賀県海洋再生可能エネルギー研究開発等事業費補助金 採択 事業者：西研グラフィックス株式会社（佐賀県 吉野ヶ里町） 事業名：漁業協調型 浮体式小型潮流発電の実証研究
H28.10	第1回 海洋温度差等海洋エネルギー発電施設の 安全ガイドライン策定委員会（国交省）
	「海洋エネルギー」をテーマにしたオランダへの訪問団 参加
H28.12	後背地調査 開始
	ドップラーライダーによる陸上での風況測定 開始（1年間以上）
	平成28年度 第1回 佐賀県海洋再生可能エネルギー推進協議会
	J☆SCRUM 第3回会議

## J☆SCRUM 第2回会議



- 日 時 H28.3.25 (金) 13:30~15:30
- 会 場 佐賀大学海洋エネルギー研究センター (IOES) 伊万里サテライト
- 参加者 会員60名
- 内 容
  - (1) 佐賀県の取り組みについて
  - (2) 産業創出プラン (案) について
  - (3) 佐賀大学の取り組みについて※終了後にIOESの施設見学





# 国への政策提案



- 日時 平成28年5月24日(火) 11時～
- 提案者 山口佐賀県知事  
代行：石橋産業労働部長
- 提案先 内閣官房 総合海洋政策本部
- 主な結果
- (1) 実証フィールドのインフラ整備
    - ・ 総合海洋政策本部事務局で予算を確保して  
**具体的な事業を行うのは困難**
  - (2) 一般海域の法整備
    - ・ 工作物に対し県が使用の許可を与え、使用料を徴収しているのも、ルールの一つ
    - ・ 可能ならば、条例の望ましい在り方を示したい。
    - ・ 漁業権は生存権に関わってくる問題であり、国として**海域の用途を決めるのは困難**
  - (3) その他
    - ・ 実証フィールドの利用事例が少ない、実績が欲しい。
    - ・ フィールドはアピール手段。
    - ・ 関係者との協議が整うならフィールド外での実証も可
    - ・ 係留技術のみの実証事例もある。直接エネルギーを生み出さなくても幅広く考えて欲しい。

## 国の海洋再生可能エネルギー「実証フィールド」のインフラ整備等について

内閣官房

### 【提案・意見内容】

平成26年7月に国が策定した長期エネルギー需給見通しの中で、「2030年までに再生可能エネルギーの比率を22～24%とする」という数値指標が示されていますが、現在、再生可能エネルギーは10%程度であり、更なる普及が求められています。

四方を海に囲まれた我が国においては海洋再生可能エネルギーの賦存量が非常に大きく、発電に利用する場合には陸上以上のポテンシャルがあると言われております。

当県では、国の「海洋再生可能エネルギー利用促進に関する今後の取組方針」(以下「取組方針」という。)に基づき、一早く、関係者との調整を進め、平成26年7月、唐津市加部島沖が国の「実証フィールド」として、選定を受けました。

選定後は、地元漁業関係者や有識者等で構成する協議会を設置し、「実証フィールド」の運営管理体制を整備するとともに、産学官金で構成する研究会を立ち上げ、海洋再生可能エネルギー関連産業のクラスターの形成を目指しているところです。

今後は、「実証フィールド」の所要設備などインフラ整備や、発電装置の性能や安全・耐久性評価のため、「実証フィールド」の利活用を進め、海洋再生可能エネルギーの実用化、海洋産業の創出を進めていくことが必要です。

また、海洋再生可能エネルギーを推進する上で、一般海域の利用に関するルールが存在せず、明確な権限と責任をもった管理者による調整が期待できないということが課題として考えられます。

については、以下の点を十分考慮していただくことを求めます。

### 【具体的な提案事項】

「海洋再生可能エネルギー利用促進に関する今後の取組方針」に基づき、国が主体的に海底送電ケーブルなど「実証フィールド」のインフラ整備を進め、事業者の実証事業参入に向けた機運醸成を図るとともに一般海域利用に係る法整備を早急に行うこと。

### 【当県の現状と課題】

- 風況賦存量の豊富な自然条件や国の実証フィールド、研究拠点の立地などの社会条件が整った当県の地域特性を活かし、実証フィールドや研究拠点を含む関連地域を海洋再生可能エネルギーの中核拠点とし、海洋再生可能エネルギー関連産業の創出、地域活性化を目指している。
- 国の取組方針では、「実証フィールドの所要設備の整備については、国が主体となって検討を進める」と明記されているが、海底送電ケーブル敷設などの予算措置はない。海外では、国が海底送電ケーブル、陸上実験施設を整備し、事業者の機運も醸成され、海洋エネルギーの普及が進んでいる。
- また、取組方針の中では、「海域利用に係るルールの明確化の視点から、必要となる法制度の整備について検討し、早急に結論を得る。」とされているが、海域利用に係る法整備がされていない。事業者の取組を進めるためには、法整備が必要である。

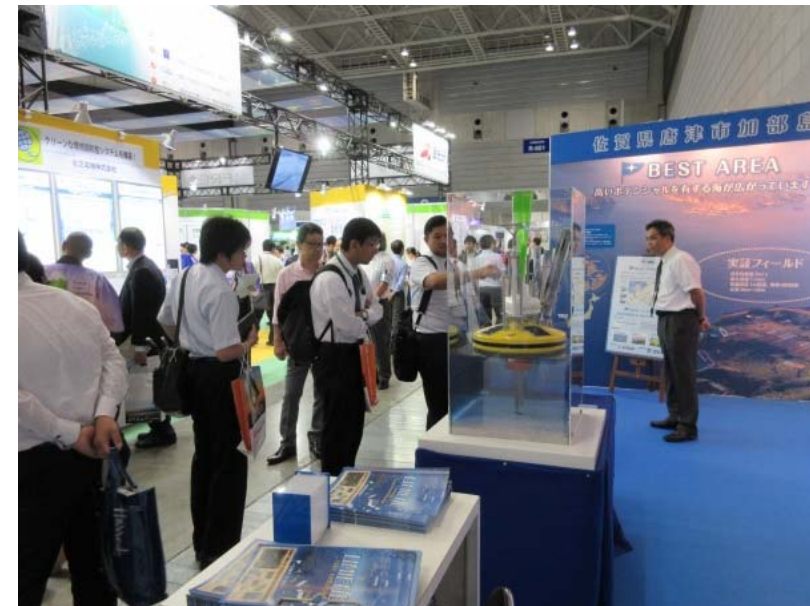
## 第11回 再生可能エネルギー世界展示会



- 会 期 H28.6.29 (水) ~7.1 (金) 10:00~17:00
- 会 場 パシフィコ横浜 展示ホールC・D (横浜市西区みなとみらい)
- 主 催 再生可能エネルギー協議会
- 来場者 6/29 7,183人 6/30 8,388人 7/1 9,552人

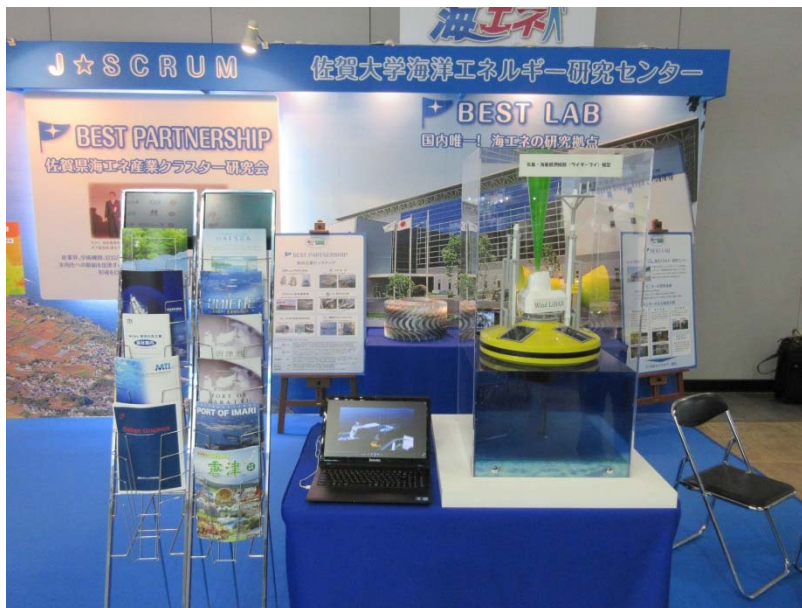
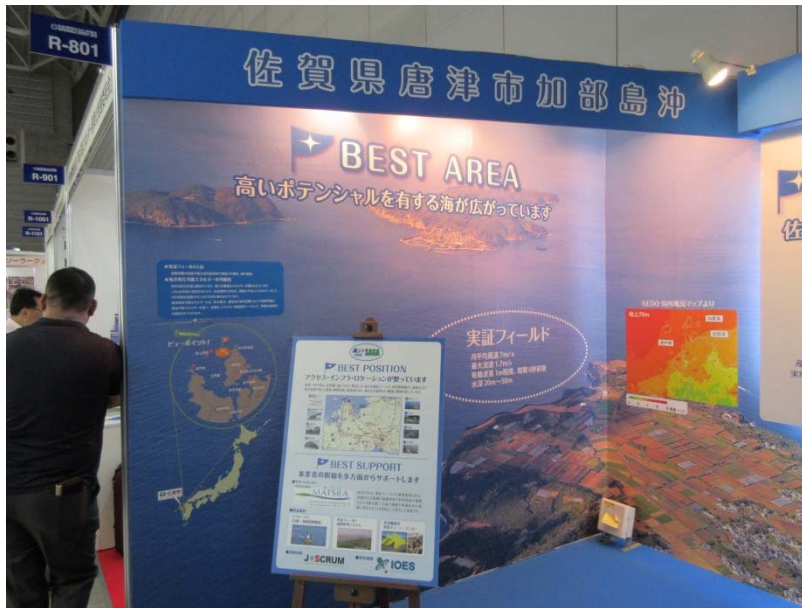
**合計 25,123人**

- 佐賀県の展示内容
  - ・ 佐賀県海域の特徴
  - ・ ライダーブイ設置工事動画
  - ・ 双方向衝動タービン展示 (佐賀大学IOES)
  - ・ J☆SCRUMの紹介
  - ・ ライダーブイ模型展示





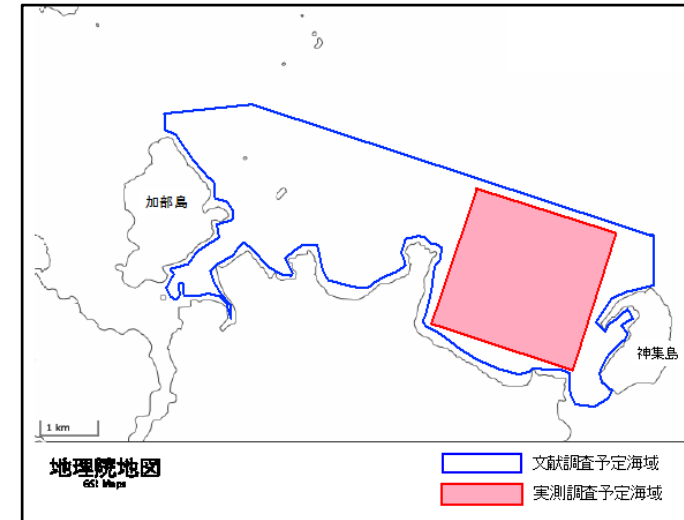
# 第11回 再生可能エネルギー世界展示会



# UMIENEデータ整備



- 事業名  
平成28年度 佐賀県UMIENEデータ整備業務委託
- 目的 UMIENEデータの整備
- 期間 平成28年8月10日  
～平成29年3月24日



## UMIENEデータとは…**海洋エネルギー創出のための基盤情報**

文献調査：海域の自然条件・社会条件情報の収集整理  
 自然条件…地形、地質、生物、気象・海象  
 社会条件…漁業操業、港湾施設、海岸保全地域、  
 定期船航路

実測調査：海底地形・地質調査、海底面状況調査

## 後背地調査



○事業名 海洋再生可能エネルギー産業創出に係る後背地可能性調査等業務委託

○目的

・ 陸地での後背地可能性調査を実施※

・ 環境影響評価で必要と考えられる既存データの調査・収集

資料として整理

**海域への進出を検討する事業者の誘致につなげる**

※拠点港を中心とした陸地での海エネ機材の保管、積み出し、運搬ルート等

○期間 平成28年12月1日～平成29年3月24日



## 「海洋エネルギー」をテーマにしたオランダへの訪問団



### ○概要

オランダで開催された「海洋エネルギー展示会・会議」、「第4回国際海洋温度差発電会議」への日本の海洋エネルギー関係者による訪問団の派遣

(テーマとなる海洋エネ：海流・潮流・波力・海洋温度差発電・海洋濃度差発電)

### ○主催 【オランダ側】

- ・オランダ水力エネルギー協会(EWA)
- ・オランダ王国大使館
- ・第4回国際海洋温度差発電会議
- ・オランダ水組合 (NWP)
- ・海洋エネルギー展示会・会議

### 【日本側】

- ・一般財団法人海洋エネルギー資源利用推進機構 (OEA-J)
- ・佐賀大学

### ○日程 10月24日(月)～27日(木)

### ○参加者 自治体、学術機関、企業など 16名

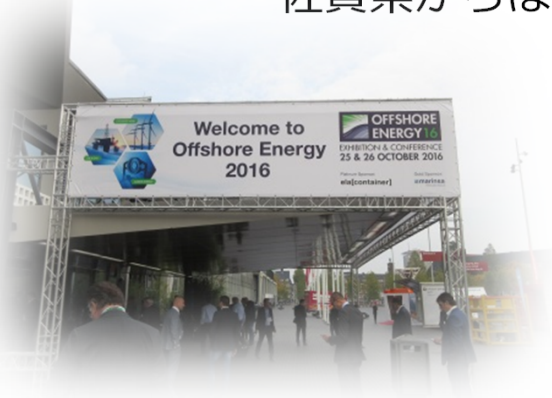
佐賀県からは、**・佐賀県海洋再生可能エネルギー推進協議会 川寄会長**  
(佐賀玄海漁業協同組合 代表理事組合長)

**・佐賀県海洋エネルギー産業クラスター研究会 吉田会長**  
(株式会社ワイビーエム 代表取締役会長)

**・佐賀大学IOES 今井准教授**

**・県職員 2名**

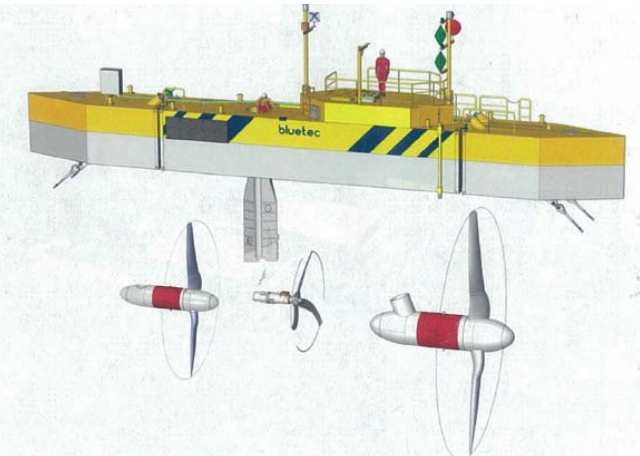
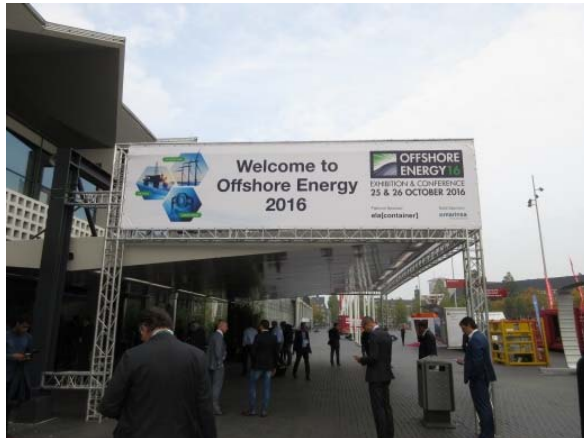
の5名が参加



## 「海洋エネルギー」をテーマにしたオランダへの訪問団



- 期間中、オランダの海エネ関連企業・団体との会合を実施。  
佐賀県側とオランダ企業側の状況を確認し、今後は、連携が出来るところがあるか探ることとした。  
現在、オランダ大使館の協力を得ながら、オランダへJ☆SCRUM会員企業の情報を発信するとともに、佐賀県での事業実施に関心がある企業の情報を収集中。



## ドップラーライダーによる陸上での風況測定



### ○概要

昨年度整備したライダーブイ（気象・海象観測機器）に搭載されているドップラーライダー「ZephIR 300」を、本体から分離し、単独で陸上にて運用し測定

### ○測定場所 唐津北部衛生処理センター「しおさい」（唐津市呼子町大友）

### ○測定期間 12月より試運転中（最終調整は1月に実施予定）

### **1年間 継続しての測定を予定**

※ ただし、ライダーブイの使用希望があればそちらを優先

